

平成 24 年 2 月 2 日
8

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

直木三十五記念館

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

書を開きまちを遊ぼう ～本をめぐる大冒険

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	
8月	なには自慢文学ウォークの実施
9月	まち歩きCUPへのエントリー準備、赤本展示のための調査の実施
10月	大人の御伽船まち歩きの実施とまち歩きCUPの参加、作家さんを囲む会「百田尚樹さん」の開催
11月	
12月	特別企画展「赤本」開催
1月	作家さんを囲む会2「藤岡陽子さん」の開催、池波正太郎記念文庫交流会
2月	直木三十五旧邸の遺品展示

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	本を通じて上町台地の魅力を向上させることの一翼は担えたと考える作家さんを囲む会を定期的に行うことができる基礎ができた
今 後 の 展 望	大阪文学学校など作家を目指す方々に地元を意識してもらえるような取り組みを実施していきたい。 予算の都合上実施できなかった古書組合との取り組みも今後の課題として継続していきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 24 年 3 月 8 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

からほり倶楽部（空堀商店街界限長屋再生プロジェクト）

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

まちづくり活動数珠つなぎプロジェクト

—空堀におけるまちづくり活動 10 年間の振り返りから、次世代まちづくりへ
※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	<p>若手まちづくりミーティング&まちづくりインタビュー 日時：7月25日 19時から22時 参加：小上馬、渡辺（尚見）、門積（空堀子どもまちづくりの会）、平川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・からほり若手まちづくりミーティングの進め方について議論 ・空堀子どもまちづくりの会についてインタビュー → 子どもが関わることで地域の関心や新たな視点を得る手法を学ぶ
8月	<p>からほり倶楽部定例会</p>
9月	<p>若手まちづくりミーティング 日時：9月1日 19時30分から22時30分 参加：小上馬、渡邊（尚代）、渡辺（尚見）、六波羅（涼）、辻、平川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年間継続してきた活動の確認 ・これからの活動コンセプトについて提案 ・情報発信について検討 <p>若手まちづくりミーティング 日時：9月21日 19時30分から22時30分 参加：小上馬、渡邊（尚代）、渡辺（尚見）、池田、辻、平川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の課題を確認 ・住民主体のあり方について検討 ・“橋渡し役”としての位置づけを模索 <p>若手まちづくりミーティング&まちづくりインタビュー 日時：9月28日 19時30分から22時00分 参加：若手3名+ゲスト1名（地元商店の経営者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗とまちづくりについてインタビュー → 空堀のまちと人の魅力を再発見 ・からほりにおけるまちづくりのアイデアを議論
10月	<p>パネル展示会&親子でからほりカルタ大会 日時：10月16日 参加者：約200人（内カルタ大会は50人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難波宮跡公園で開催された中央区民まつりにてブースを設け今までまとめたまちづくり活動の展示と、親子で楽しめるからほりカルタの大会を開催 ・地域の情報発信も兼ね、地域で活動する団体のパンフレットやチラシ、マップなどを収集し、来場者に配布

11月	若手まちづくり活動報告会—からほり倶楽部引き継ぎ会— 日時：11月11日 参加者：約40人 ・地域住民や活動団体などに参加いただいて、空堀のまちづくりについて、魅力や課題、アイデアを出し合うワークショップを実施 ・からほりのまちづくりへの想いについて、参加者みんなで共有
12月	若手まちづくりミーティング ・からほりまちづくりレポートの作成
1月	若手まちづくりミーティング ・からほりまちづくりレポートの作成
2月	からほりまちづくりレポートパネル作成 からほりまちづくりレポート（からほり倶楽部 10years）完成

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効果	<p>今回、まちづくり提案事業として、空堀やまちづくりに関心のあ20代、30代を中心とした若手メンバーで、今後のまちづくりについてのビジョンやアイデアなど共有をはかり、活動のプラットフォームとなるつながりや情報整理を行った。</p> <p>1. いろんな人とつながる</p> <p>(1) からほり倶楽部と関係のある人・団体をはじめとした空堀に関わる人や団体にインタビューや交流会を通じて、ネットワークを再確認した。からほり倶楽部の引き継ぎ会などでは、今までお世話になった方々に参加いただき、それぞれの10年を振り返りながら課題やこれからのまちづくりへの想いを共有した。</p> <p>(2) また、新たなネットワークとして、マンション住民、子ども、今までからほり倶楽部とは特にかかわりのなかった人・団体とも、新しいメンバーのネットワークを活かして、新たにつながりを開拓していった。具体的には、マンション住民などに多い子育て世帯が参加しやすい子どもカルタ大会などを通じて、からほりでの活動の紹介や、子育て世帯が感じるまちの魅力やまちづくりの課題を意見交換する場をもった。</p> <p>2. 成果をアウトプットする</p> <p>(1) 空堀のまちづくり活動10年報告書 11月11日のイベントにあわせ、インタビューなどから得た情報をもとに、からほり倶楽部、そして空堀のまちづくり活動10年の報告書としてまとめた。また、空堀でどんなまちづくり活動が行われてきたのか、からほり倶楽部年表、空堀まちづくり活動年表などをまとめることで、今後のビジョンにつなげる基礎資料とした。別途資料を参照</p>
----	--

(2) 11月11日引き継ぎイベント

インタビューやちょっとした勉強会、飲み会などの集まりを重ねながら、今後のからほり倶楽部のまちづくり活動ビジョンを描く。組織としての体制や活動内容などを、地域のみんなでディスカッションするワークショップを開催した。

3. 小さな、細かな集まりの場をもつ

インタビューや、勉強会、イベント、まち歩き、飲み会など、小さな集まりの場を積み重ね、個々のつながり、空堀でのつながり、からほり倶楽部のつながりなどを確認した。若手まちづくりミーティング&まちづくりインタビューとして、ゲストを呼びながら、まちづくりに関する想いや課題をやりとりするミニ座談会を開催した。

今後の
展 望

今回、報告書づくりなどの「まちづくりの情報収集」、若手まちづくりミーティングや、まちづくりインタビューといった「情報共有の場づくり」や、まちづくりパネル展示や子ども空堀カルタ大会といった「まちづくりのきっかけづくり」などを、若手メンバーが共同作業しながらカタチにしていった。そのプロセスは、今後新たなメンバーが空堀やその周辺地域においてまちづくりをするうえで、ネットワークやノウハウを得る最初のきっかけとなった。長年、まちづくり分野では先駆的に取りくまれてきた空堀をフィールドに、その活動メンバーが世代交代するときには大きなエネルギーが求められる。その段階でマイルドHOPEの助成は、新たなチャレンジに向けてのバックアップとなり、若手メンバーを中心にした企画をカタチにし共有できたことは一歩前進できたと思う。今後の展望としては、これら共同作業で得た情報・ネットワーク・ノウハウを活かして、より具体的な地域活動を事業化していくことを目指す。また、空堀をフィールドとしつつも、地域間の交流は今回では十分に広げられたとはいいがたい面もあるので、上町台地あるいは大阪を意識した取り組みを盛り込んでいきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 24年 3月 7日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

「上町台地と私学」を考える

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地と私学～こいからの地域と私学を考える

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	2次審査（プレゼン）
8月	
9月	各先生に講演依頼
10月	後援名義申請（大阪府・大阪市）/チラシ作成・案内配付準備
11月	会場（大阪成ス）エアリ見・各団体等チラシ配布
12月	予定通り（12/11）実施
1月	事業報告書作成準備
2月	事業報告書完成・配付

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	多くの市民の方に上町台地の教育環境の豊かさをよび、私学としての地域貢献の存在を発信する機会となった。（別紙 報告書参照）
今後の展望	上町台地における私学の存在意義を確認するとともに、各学校が種別を超えて、文化的連携を必要と痛感した。今後は、さらに各学校と巻き込んで、地域と私学、都市と私学文化などを主題に、継続的な学びの場を設けたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 24 年 2 月 3 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO 法人 天王寺 21 協議会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

わたしの大阪「うちわ絵」大募集 展示会と投票結果で、上位作品を製品化。

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	●11日(月)申し込み締め切。 出品料会員一人1点に限定、2,000- 一般3,000-として白うちわ配布、 ●30日(土)作品応募締め切
8月	●ギャラリーピネで作品展示 4日(木)~9日(火) 入場者の人気投票の 結果により上位5点を製品化(各300本)計1,500本製作
9月	●上位5点、5名に賞状、うちわ各30本贈呈。昨年お世話になった 生国魂神社、高津神社に各200本寄贈(祭り用) 東北の被災地・福島へ 300本、カーネーションに沸く岸和田の団体から「だんじり」をモチー フにしたうちわの申し込みがあり200本を寄贈。また希望者には5本 1,000-で頒布しました。
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	当初ぼんぼり展を開催の予定が、東北の震災により電源に使用する乾電池が払底。急遽、節電効果を含めて「うちわの絵」を公募、製品化して、多くの人々に「大阪」PRすればの見地から実施した。が展示会中の入場者が約1,500名は物足りなかった。
-----	--

今後の 展 望	事前のPR不足と、上記事情が重なって公募スタートが遅れ、集まった作品が思ったほど数はなかったが(八十点余)製品化されて後、問合せも多く、特に被災地の福島、岸和田では大変に喜ばれた。
------------	--

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 24 年 3 月 8 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

空堀子どもまちづくりの会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

「空堀子どもまちづくり～地域の方と考えるこれからの空堀～」

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	
8月	チラシ作成、ブログ作成、活動報告書作成
9月	ブログ更新、参加者募集
10月	ブログ更新、第1回「空堀を探検しよう」、第2回「撮影隊出動」
11月	ブログ更新、第3回「まちの人にインタビュー」、第4回「発表会」
12月	ブログ更新、空堀紹介映像の編集
1月	
2月	2011年度活動報告書の作成

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	将来のまちの担い手である子どもたちがまちの資源を理解し、まちに対する関心が高まったこと、大人においてもそうした子どもたちの姿に触れたり活動に巻き込まれる中で、まちづくりへの関心とまちづくり意識が触発されていることが確認された。
今後の展望	まだまだ、空堀の今後のまちづくりについて地域全体で考えるという段階には到達していない。今後も活動を継続し、地域全体でまちづくりに取り組むという機運を作り出していきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 24 年 3 月 9 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO：後悔しない家造りネットワーク<いい家塾>

共同事業者名（あれば記入してください）

谷町空庭：山内美陽子

2 事業のテーマ・タイトル

谷町う木（き）う木（き）

～木のある暮らしがしたくなる、そんなプログラムを集めたイベント～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	15 日：杉 BOX づくりと、オリジナルブックエンドづくりワークショップ
11 月	19 日：上町台地に眠る木と水と太陽の信仰ツアー
12 月	
1 月	28 日、29 日：谷町う木う木ま tree
2 月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	1 月 28 日、29 日開催の「谷町う木う木ま tree」では 300 名が参加。当日の運営には吉野、高知、宮崎などからも参加。川上である林産地と川下にあたる都市部でのネットワークができた。一般参加者は木に関するワークショップや講演会に参加し、意識を高めていた。また、会場内では上町台地に関するパネルも展示。関心をひいていた。
今後の展望	今回できたネットワークを活かし、都市部と林産地におけるネットワークを拡充する。今後も上町台地内で木に関する啓発企画を開催したい。また、木に関する情報が詰まった Web サイトを作成した。このサイトを今後も運営し更なる情報発信をしていきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

空堀界隈の長屋と路地における暮らしとコミュニティに関する研究

～2011年8月23日・24日の地蔵盆から～

近畿大学大学院総合理工学研究科環境系工学専攻
都市計画研究室 渡辺尚見

1. はじめに

大阪府中央区にある空堀商店街界隈は、震災を逃れた路地や長屋が多く残る地域である。現在では、幹線道路を中心に路地・長屋がマンションなどの高層建築に建て替わり、都市化が進行している。しかし、路地の中には多くの地蔵や祠が存在し、現在でも地蔵盆が行われている。ここでは、地蔵盆の現状を把握し、長屋や路地での暮らしやコミュニティについて考察することを目的に地蔵盆の調査を行なった。

2. 調査概要

調査対象地区は、一般的に空堀と呼ばれ、修景事業の対象である「空堀地区HOPEゾーン協議会」の範囲を対象とした。調査は地蔵盆当日の2011年8月23日・24日に近畿大学都市計画研究室の学生を中心に行なった。調査内容は、写真撮影、動画による記録、3か所のアクティビティ調査、ヒアリング調査を13カ所行なった。

3. 地蔵盆の概要

地蔵盆は毎年8月23日・24日に開催されている。2011年の調査では、16か所の地蔵盆が見られた。地蔵盆の運営主体は、地蔵所有者である。空堀では、町会、隣組、個人の3種類の形態がみられた。

地蔵盆で行なわれている行事については、それぞれの地蔵尊によって行事の内容や規模・時間帯などは異なっている。主な流れは、8月23日の朝から設営が行われ、午後からは近隣の人たちがお参りにやって来る。夜になると提灯が灯され、ご詠歌を唱え、1日目が終わる。次の日の24日は、お坊さんと呼び、お経を唱えてもらう。その後、子どもたちにお菓子を配布する。お菓子が配り終わるとお供えを分け、地蔵盆が終了するのが主な流れである。

3. 地蔵盆の空間構成

地蔵盆の日は提灯などさまざまな物品により飾りつけられる。テントが9ヶ所で使われていた。パラソルを使用しているところも1ヶ所見られた。ゴザを用いているところが5カ所、いすを用いているところが10ヶ所あった。他にもベンチを置いているところが1ヶ所みられた。お供えを置くための台は、折りたたみの長机を使っているところが7ヶ所見、専用のお供え台を作っているところが5ヶ所、ビールケースを利用しているところが1ヶ所見られた。

これらの物品は、地蔵盆以外でつかわれることはない。保管場所としては、空きスペースや倉庫、分担して自宅に保管している所や、所有者

図1) 2011年にみられた地蔵盆

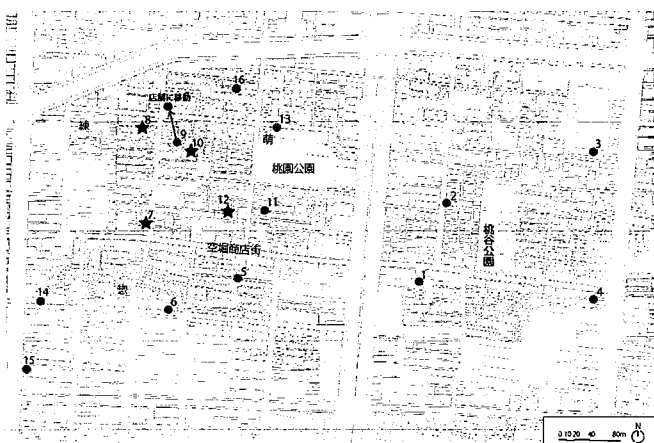


図1) 地蔵盆の様子

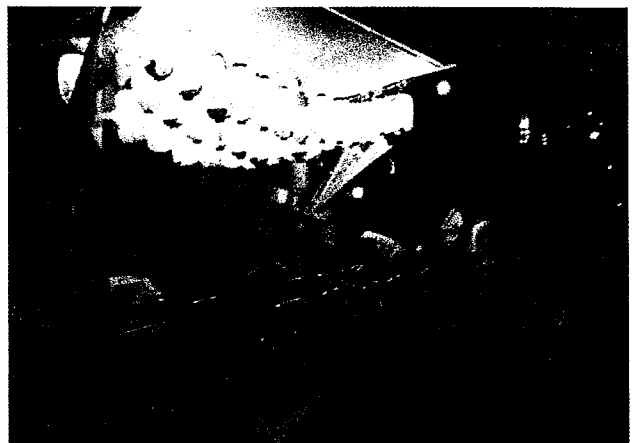


表1) 地蔵盆の概要

No.	名称	所有	場所	世話人	行事					お菓子の個数	
					お経	ご詠歌	数珠くり	お菓子配布	盆踊り		その他
1		南北町会	道路	町会の有志で行う		○		○			60程度
2		個人	道路	個人主体/近所で手伝い		○		○			
3	北向地藏尊	北々町会	公開空地	北向地藏を守る会メンバー	○			○	○	○スーパーボールすくい/△金魚すくい	
4		隣組(路地内)	路地	隣組全世帯参加	○	△					
5		隣組(路地内)	路地	当番制		○	△	○			50
6	矢田地蔵尊	個人	道路	個人主体/隣組で手伝い	○	△	△	○		△ビンゴ大会/△宝探し	250
7	水呑地藏尊	個人	道路	個人主体/隣組で手伝い	○		○	○	△	○行燈(お孫さん制作)	200
8	矢田地蔵尊	隣組(路地内)	路地	当番制	○	△	○	○			60
9	圓妙地藏尊	個人	屋内(店舗)	個人主体/隣組で手伝い	○			○			80
10	日隈地藏尊	隣組(路地内)	路地	当番制	○			○	△		200
11	延命地藏尊	隣組(路地内)	路地	当番制	○	○		○	△	△劇/△行燈	200
12		個人	路地	個人主体/隣組で手伝い	○	○		○			
13	北向地藏尊	隣組	道路	隣組の有志で行う	○	○		○		△行燈	160
14	金剛地藏尊	個人(地藏盆は隣組)	道路	隣組全世帯参加		○		○			
15	出世地藏尊	不明	道路	近所の有志で行う		○		○			100
16	日除地藏尊	隣組	路地	隣組の有志で行う	○				△		

現在行われている行事：○ 過去に行われていた行事：△

表2) 地蔵盆のしつらえ

No.	提灯		しつらえ						保管場所
	色	数	テント	ゴザ	いす	ベンチ	机	その他	
1	白	58			○		○	木枠	空スペース
2	白	19		○					空スペース
3	白	37	○		○		○	紅白の幕	共有の倉庫
4	3色	18			○			専用の台	共有の倉庫
5	3色			○			○	パラソル	
6	白、桃、3色	17	○		○		○		自分の会社
7	桃、3色	約50	○		○			専用の台	自宅倉庫
8	桃、3色	34	○			○	○		共有の倉庫
9								店舗のいす、机	自宅倉庫
10	白	18	○	○			○	専用の台	共有の倉庫
11	桃、3色	36	○	○				専用の台	共有の倉庫
12	白、桃、3色	37			○			専用の台	自宅内
13	3色	39	○	○	○		○		自宅倉庫
14	3色	30	○		○			ワゴン台	自宅内
15	3色	約20	○		○				分担して各家
16	白、桃、3色	9			○			ビールケース	分担して各家

いと考えられる。

の自宅や会社で保管しているなどが見られる。

4. 路地でのアクティビティ

路地で地蔵盆が行われているNo. 8、No. 10、No. 12の3ヶ所についてアクティビティ調査を行った。調査時間は23日の15時から21時、24日の10時から15時である。15分ごとの人の流れと行動の記録を行なった。それ以外の時間帯についてはヒアリング調査による聞き取りで補完した。

当日は、常に住人が数名会話をしている様子が見られた。隣組が運営する地蔵尊は連帯意識が強く、当番は関係なく参加する人が多かった。個人が所有する地蔵盆でも隣組の住人はみんな進んで手伝っている様子が見られた。地蔵盆を大切な行事であると意識している住人が多

5. まとめ

地蔵盆が毎年行なわれている路地では、日常的なコミュニケーションが活発に行なわれていると考えられる。地蔵盆のような昔から伝わる行事は、近隣とのしごらみなどでネガティブに捉えがちであるが、ここの住人達は地蔵盆は大変だと言うが、地蔵盆をやりたくないという声は見られなかった。しかし、担い手の高齢化により、地蔵盆の規模を縮小せざるを得ないところや、遠くに暮らす子どもにも自分が元気なうちに地蔵盆を伝えたいがなかなか帰って来てもらえない、などの問題点もある。地蔵尊を守り、地蔵盆をこれからも継続できるような仕組みを作れるように考えていく必要があると考えられる。